

ハートランド通信

ぐらんぱぐらんま

第22号

平成24年9月

発行
介護老人保健施設
ハートランド・ぐらんぱぐらんま
広報企画班

「多摩胃ろうネットワーク」実技講座に参加して

看護副科長 原和子

人が生きていくためには、必要なカロリー、水分、栄養を口から取る必要があります。ただ、病気や認知症の進行により、口から摂取することが出来なくなることがあります。

口から取れなくなったときの栄養法には、主に静脈栄養（点滴）と経管栄養があります。血管に直接栄養を入れる経静脈栄養に比べると、経管栄養は、食物、水分、薬などの栄養を胃や腸などの消化管から吸収するので、より生涯的な栄養補給法です。

胃ろう造設は、内視鏡を使っておなかから胃に通じる小さな穴を開け、ここにカテーテルを通して、胃に直接栄養を入れます。

私たち、看護師は特に胃ろうの仕組みをよく知り、胃ろう造設部の皮膚のケア、全身状態の観察と異常の早期発見に努める必要があります。特に、栄養剤注入時はきちんと注入前準備を行い、ご本人に食事であることを説明し、体位を整え、注入速度の調整が必要。

高齢者の経管栄養のリスクとして誤嚥性肺炎と窒息が考えられます。栄養剤が食道を逆流し、気管に流れ込んでむせたり、気管に詰まって窒息したり、肺に流れて肺炎を起こします。また、口から食物を摂らないと、口腔内に雑菌が繁殖し、知らず知らずのうちに唾液と共に気管に流れて肺炎の原因になるため、歯舌を含む口腔内のケアが大変重要です。

そして、最も大切なことは、経管栄養になってしまったり、一生そのまま口から食べることを諦めることなく、口腔リハビリを行い、再度口から食べられるアプローチをすることが大切です。

経管栄養に使用されている流道食は各会社で工夫、研究のもと作られており、家庭でも手軽に使用することが出来るようになっています。

現在、ぐらんぱぐらんまには、経鼻栄養（※鼻から管を通して栄養を入れる）1名、胃ろう造設者10名おられますが、その中の1名のご利用者は、自身のもう一度口から食べたいという強い希望で、口腔リハビリを行い、毎日の食事をご自分で口からゆっくり召し上がられています。

食べることは、「生きる意欲のバロメーター」と強く感じております。

認知症研修会



認知症ってなんですか？研修に参加して

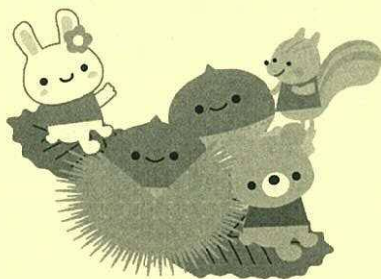
ケアサービス科川辺将行

認知症という疾患には【治す事の出来る】ものと【治す事は出来ないが薬等で進行を食い止められる】ものの2種類があります。

治す事の出来る認知症には、正常圧水頭症・肝不全・脳腫瘍などがあり、適切な治療を行えば治す事が出来ます。治せない認知症は残念ながら現在の医療では治す事は難しいのですが、進行を食い止めることは出来ます。

認知症になったからといって全ての事を忘れるのではなく、昔の事などの出来事をしっかりと憶えている事もあります。そういった事を引き出してお話をさせていただく事もあります。

私達には認知症を治す事は出来ませんが、ご利用者が安全に安心して生活を送っていただける様、また、在宅復帰も視野に入れお手伝いさせていただいています。たとえ、出来事をすぐに忘れてしまったとしても、1つでも多くの笑顔をプレゼントしたいと常に思いながらご利用者に関わらせていただいています。



介護老人保健施設
ハートランド・ぐらんぱぐらんま

〒192-0152
八王子市美山町1074 TEL042-652-2155

施設行事

入所 9月 3日(月)花火大会
16日(日)敬老会
30日(日)誕生会
10月15日(月)お茶会
28日(日)誕生会

通所 9月17日～19日敬老週間
10月 もみじ弁当
※音楽クラブ・料理クラブは毎月開催

